

## ～平成26年度全国体力運動能力調査から～

今年度全国の全ての小学校5年生（中学校は2年生）を対象に行われた全国体力運動能力調査の結果や分析された傾向については、既に報道等でもご存知の通りですが、本校の結果や傾向に概要についてお知らせします。

### <体カテスト調査内容>

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50メートル走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力点合計
男子	△	△	△	◎	○	○	△	◎	△
女子	◎	◎	△	◎	△	○	◎	◎	○

◎全国・全道を超えた種目 ○全道を超えた種目 △全国・全道を下回るもの

	身長	体重	高度やせ	やせ	正常	軽度肥満	中度肥満	高度肥満
男子	△	○	△	◎	△	◎	◎	◎
女子	○	◎	△	△	△	◎	◎	◎

◎全道・全国を超えた項目 ○全国を超えた項目 △全国・全道を下回る項目

### <調査結果全般>

- 男女とも種目によりばらつきがみられますが、総じて女子の結果が全国全道平均を上回っています。
- 男女とも、反復横跳びやソフトボール投げで全国全道を上回りますが、20mシャトルランの結果は、全国・全道の結果と比べて昨年度比で向上が見られますが、引き続き課題が見られます。
- 全般に、柔軟性や調整力の数値に課題が見られます。

### <今後に向けて>

- 休み時間に外で遊ぶ子と屋内で遊ぶ子の二極化がみられています
- 体育の時間の充実とともに、それ以外にも継続して体を動かす機会を通して、児童生徒が体を動かすことの楽しさを味わい、自身の体力や運動能力の改善を実感できるような教育活動の工夫を考えていくことが大切です。
- 特に、柔軟性に課題が見られることから、日常的な運動プログラムづくり（絆事業の体力向上）や、「ランランコース」「体力づくりコーナー」の組織的な継続した活用を進めることが必要です。
- 他学年でも、帯広市の体力運動能力調査に参加しています。結果は5年生と同様の傾向が見られます。
- 児童の実態の中では、他にも体力の向上とともに「けがをしない、バランスのとれた運動能力や危険回避能力」も大きな課題となっています。
- そのため、体育の授業を中心に、特に①落下を回避する把握力②運動中のバランスを保持する能力③着地衝撃の緩和する動作等に視点を当てた授業の組み立てが必要になります。
- 体力・運動能力の向上は、生活習慣や食生活との関連、また学力の定着や向上に関連が深いことから、引き続き数値目標を立てながら各種の取組を進めるとともに、児童の実態の詳細な把握が必要です。